

芭蕉記念館

かわら版

第10号
平成30年3月

俳句ホスト受賞作品

平成30年1月31日、須賀川市内23か所と小中学校に設置している俳句ホストに投句された俳句を選考しました。

今年は、3,921名より9,764句の投句がありました。
*最も優れた作品である年間特選と秀逸句を紹介します。

特選句

牡丹賞

須賀川の空濡れてをり初牡丹

伊東 幸子

ぼたん賞

たこあげて空とわたしがつながった

小山 恵実
柏城小6年

赤松賞

赤松の空をからりと開けて春

高橋 富子

あかまつ賞

こつていのまんなかをとぶ白いちょう

川崎 佑奈
長沼東小3年

翡翠賞

燠となりうち重なれる牡丹焚

船戸 一舟

秀逸句

かわせみ賞

ただちや土のにおいをおぎざりに

柳沼 遼
白江小4年

*6月には、表彰式が予定されています。

句意

牡丹

牡丹は殊に華やかな花なので、なかなか作句は難しいと思っておりました。昨春、娘夫婦と牡丹園に連れられた日の園内は静かで夜の雨粒が咲き始めた牡丹に残っており、一句授かりました。

ぼたん

強い風でたこがあつという間に空高くあがつて雲までとどくほどになりました。そのとき、糸を持つ手が強くひかれ、一本の糸で空と私がつながったかのように見えた様子を句にしました。

赤松

牡丹園へ吟行に行った時、青空の中に凜と立つ赤松の空を仰ぎ見て、なんと美しい空、静かな空間そして広々と明るい春を確実に感じました。そんな春をうれしく感じた時の一句です。

あまつ

クラスのみんなで校庭に出て、はいくになりそうなものを見つけてました。わたしは、校庭の真ん中でもんしろちょうがとんでいるのを見つけてました。

翡翠

牡丹焚火の日はちようど新月、みちのくの闇の中、牡丹焚火の澄み切った焔に見とれました。焔が収まった時、重なつた真つ赤な燠が溶岩のように見え、大変美しく印象的でした。

かわせみ

雨があがつて外に出た時に感じたことを書くことができました。土のよいにおいがする福鳥島の自然がこわれないうれしいと思いついた句です。

年間入選句

*年間入選句は、年間において、優秀であった作品です。

- | | | |
|--------------------|--------|-------|
| はつ日の出水へいせんとうき上がる | 白方小2年 | 関根ひなの |
| ゆりの花うしろむいたよしらんぷり | 須二小2年 | 阿部愛莉夏 |
| 夏の雨やさしくふるよ森の中 | 須二小2年 | 伊藤 豪 |
| はかまいり学校のようにすをおしえたよ | 白江小2年 | 本田 葉音 |
| 秋暑し大きくはねるポップコーン | 鏡石一小5年 | 飛澤 仁 |
| いねかつて遠くに見える友の家 | 柏城小6年 | 加藤 雄真 |
| こたつから本だなまでの遠いきより | 白方小6年 | 増子 真浩 |

年間優秀校

等躬賞

須賀川市立柏城小学校

授業に俳句教室を取り入れるなど、俳句学習ができる環境づくりを長年にわたって継続されました。

今年度より新設

第二回入選句

●第二回の総投句数は4,390句でした。

一般の部

入選句7句

- | | | | |
|----------------|-------|---------------|-------|
| 初紅葉多代女の句碑の大らかさ | 小野 寿子 | 水仙や三面鏡の小宇宙 | 関根 邦洋 |
| 種見ゆる園児の手品敬老日 | 阿久津勝利 | 坂多き俳句の町や枇杷の花 | 道山 孝男 |
| 雪吊の縄豪快に宙へ投ぐ | 鶴沼 操 | 燠となりうち重なれる牡丹焚 | 船戸 一舟 |
| 宇津峰にあまねくひかり雁の棹 | 渡辺 圭子 | | |

焼き芋を三つに分けて家族だね

幼稚園

平間 柊哉

ゆきのおとないしよばなしみたいだね

阿武隈小1年

遠藤かのん

はつ日の出水へいせんにうき上がる

白方小1年

関根ひなの

ゆきだるまいつつならべてかえりまつ

白方小1年

深谷 蘭

妹のはつ雪見る目きらきらだ

阿武隈小2年

塩沼 勇人

たんじょう日もみじがほくにおめでとう

柏城小2年

柏木 颯介

あきまつりダーツゲームで二百点

柏城小2年

小林 大知

秋の空きのうの空より高いかな

西袋二小2年

鈴木 友基

わたあめの屋台気になるはつもうで

白江小2年

石井 大陽

コスモスがさいて給食ビーフシチュー

須一小3年

高柴 日和

秋の雲校しやをぐるんとかこんでる

柏城小3年

菊地 那奈

あきのそら一組の声ひびいてる

柏城小3年

佐々木優愛来

のぼりぼう上に大きな秋の空

柏城小3年

諸根 優芽

スケートのバックができた日うれしいな

小塩江小3年

滝田 千晏

ばあちゃんに会いに行こうよ冬休み

大東小3年

荒川 純輝

夜空からぼくらを見てる満月が

須三小4年

牧野 英汰

空っぱだ体育館のツバメの巣

阿武隈小4年

安藤 和貴

さか上がり十月の雲やってくる

西袋一小4年

関根 ゆい

しもばしら朝の光に返事する

西袋一小4年

高橋 孝成

いねかりがやとと半分父の声

西袋二小4年

渡辺 悠太

帰り道きんもくせい香りした

稲田小4年

杉橋 音翔

もみじの葉頭におちてかみかざり

長沼小4年

鈴木 えま

雪の日も鳥の集会やっている

白江小4年

小平菜々美

ホームラン打って見上げるいわし雲

柏城小5年

薄井 智大

いわしぐもむれをつくって空の旅

柏城小5年

遠藤 花菜

秋暑し大きくはねるポップコーン

鏡石一小5年

飛澤 仁

ゆかたきでげた音ひびく夜の街

須二小6年

高橋 心優



カーテンのすきまから見た流れ星

柏城小6年

根本 雄正

しもばしらじゃきじゃきふんで墓参り

阿武隈小5年

加藤 芽衣

いねかつて遠くに見える友の家

柏城小6年

加藤 雄真

北風がぼくの家にもやってきた

大森小6年

須釜 一葉

こたつから本だなまでの遠いきより

白方小6年

増子 真浩

登下校見渡す限り稲の波

須二小3年

安藤 歩幸

どの句も子ども達が、自然の移ろい、思いやり、ユーモア、うれしいこと、悲しいこと・色々なことを17文字のリズムで指折り数える姿が浮かびますね。

俳句をよもう

梅 うめ

梅が香にのつと日の出る山路かな

芭蕉

梅の香りがただよ山路を歩いていると、それに誘われ、ぬつと太陽が顔をだしましたよ。

梅咲やしようじに猫の影法師 一茶

梅の咲く季節。縁側の障子に暖かな陽射しが当たり、猫の影法師が障子に映っています。小さな変化のまなざしを感じる句です。

梅咲いて庭中に青鯨が来ている 兜太

朝起きて、ひよいと庭をみたら、青さがあちこち泳いでいる様に庭全体が青い空気に包まれ、海の底に見えたよ。春の訪れを特有な世界で詠んでいます。



言の葉

二十四節気一 春分

(3月21日〜4月4日ごろ)

春分は、太陽が真東から昇り、真西に沈む、春分の日。昼夜の長さがほぼ同じになり、これからだんだん昼の時間が伸びてきます。「自然をたたえ、生物をいつくしむ」日です。

【須賀川市芭蕉記念館かわら版第10号】をお届けします。

暖かい春になると気分が浮き立つのですが、花粉症の方には、うらめしい季節でもあります。その「花粉症」は、春の季節でもあるんですよ。

杉花粉ジャンブルを素通す 節代

投句募集

俳句 (選句会・発表) 年二回
ポスト (副賞) 記念品・作品集

「桜」を思い起こしますが、万葉の昔、桜より「梅」が人気でした。